

「都市伝説」とリアリティ タイで勃興した「アイ・カイ」信仰をめぐって

小川絵美子 日本学術振興会特別研究員RPD
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

数年前からタイで注目を集めている「アイ・カイ」もしくは「ター・カイ」と呼ばれる少年像がある。ナコンシータマラート県の寺院、ワット・チェディーに祀られる彫像であり、その像に参拝したところ、投資や商売において御利益が得られたとの噂が相次ぎ、注目されるようになった。根拠に欠ける噂話にも見えたものが、次第に人気を集め、紛れもない信仰対象として全国的なトレンドになっている。

アイ・カイ少年像とは・・・

もとは寺院で出現した霊を供養するために彫像されたものだといわれるが、歴史的経緯やその霊の正体ははっきりとはしていない。

ワット・チェディーは、1000年以上の歴史のある寺院とされるが、以前はほぼ廃墟化しており、改修工事が行われたのは1957年のこと。その際、工事の関係者たちは、夢で裸の少年に出会うなど、神秘体験？ポルターガイスト現象？にあう。これをチェディーを守る霊的なものの仕業であろうと考えた人々は、いたずら少年を「アイ・カイ・デック・ワット・チェディー」と呼ぶように。 <https://www.sanook.com/horoscope/104781/>



画像出典：
<<https://www.thairath.co.th/lifestyle/life/1938088>>

職人の夢に現れた姿をうつし「アイ・カイ」の木像が作られる。10歳くらいの裸の少年像が彫られ、改修後の寺院に祀られる。1983年にはアイ・カイ像をモチーフとした最初の御守も作成される。やがて、アイ・カイの像に祈願したところ、行方不明になった家畜が見つげられた事例が相次ぐなど、像は地元住民からの信仰を集め始める

【伝説】

タイ陸軍の一部隊がワット・チェディーを拠点基地にすることとなった際、本堂で眠ろうとした兵士たちは、誰かに手足を引っ張られたり、頭を小突かれたりという感覚を覚え、眠ることができなかった。翌朝、地元住民や当時の住職に事情を話した兵士たちは、それは「アイ・カイ」の仕業だろうと告げられる。そこで、アイ・カイ像に礼拝したところ、アイ・カイのいたずらは収まったといわれている。以上の逸話がきっかけとなり、アイ・カイの伝説は地元から全国へと知名度をあげていく。以来、アイ・カイ像には兵士風のサングラスや迷彩柄の衣類が着せられる事が多い。また他にも、玩具、闘鶏(の置物)、爆竹、花火などいかにもいたずら小僧らしい品々がお礼参りの供物の定番となっている。



闘鶏の玩具

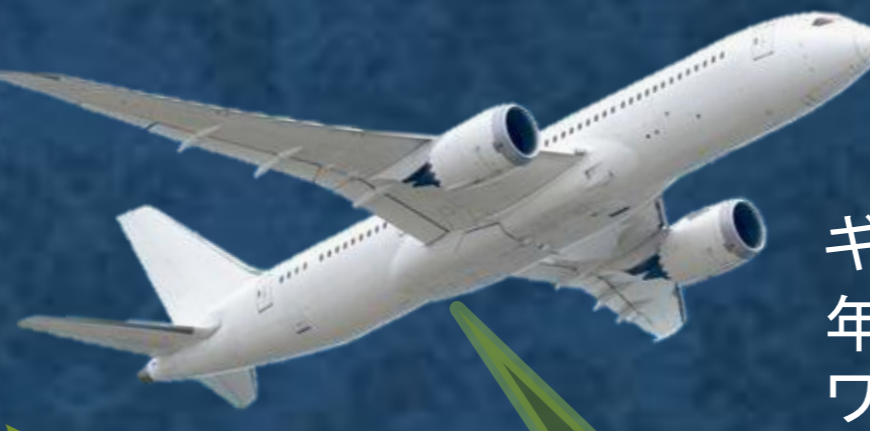
爆竹

非業死者霊？
精霊？
座敷わらし？

COVID-19のパンデミックによる閉塞感のなか、「宝くじに当選した！」などSNSで話題になり、人気が拡大

【伝説】
アイ・カイにまつわる伝説には諸説あり。寺に住み込みで仕えていた少年が近くの湖の事故で命を落とし、そのまま魂が寺にとどまっているという説もあるが、実在したといわれる高僧、ルアン・プー・トウアット(Luangpuu Thuat/หลวงปู่ทวด)とゆかりがあるという説が好まれ、広く知られる。ルアン・プー・トウアットは、海水を飲水に変えるなど数々の奇跡で人々を救ってきた、神通力をもつ高僧として知られ、タイでは大変人気がある存在。ルアン・プー・トウアットが国内を行脚しワット・チェディーを訪れた際、当時荒れ果てていたワット・チェディーが実は後世に残すべき重要な地であると感じ取り、アイ・カイに寺院にとどまり守護するように命じた。その時のアイ・カイはルアン・プー・トウアットに伴われていた弟子であったという説もあれば、地元の少年であったという説も。アイ・カイは寺に仕え、地域の人々に愛されたが、不慮の事故で命を落とし、その魂は寺院を守護するという師との約束を霊となって守り続けているという。肉体の寿命を超えるために自ら命を断った、もしくはルアン・プー・トウアットと出会ったときにはすでに精霊であったともいわれる。 <<https://www.tnews.co.th/variety/533444>>

「アイ・カイ」の「カイ」とは卵のこと。この地方で一般的だった少年の愛称。「アイ」は「野郎」や「小僧」にあたる言葉で、ここでは親しみを込めた呼称であるが、蔑称、悪態にも使われる言葉であることから、ワット・チェディーでは「ター・カイ」(卵おじさん)への呼び替えを推奨しているが、定着には至っていない



ギター・ボーカリストのイーが2017年に発表した曲「アイ・カイ・デック・ワット・チェディー」<YouTube>より

ナコンシータマラート県直行の国内線が増便され、全国から毎日数千単位の参拝者が訪れる

2006年頃、同県の別の寺院が発祥のプラ・ジャトウーカム・ラマテップというお守りが熱狂的な人気となったことがある。

あくまで自然発生

周囲に浮き出る数字の宝くじを購入すると当たるとの噂



<<https://www.sanook.com/news/8344442/>>

あくまで別の名前



参拝者の増加を受け、ワット・チェディーは拡張中(広大な駐車場のほか、フードコートやATMも)。

全国の他の寺院や祠にもアイ・カイ像のレプリカが祀られたり、人気バンドの新曲のテーマになったり、全国的な大流行に。



人気バンド、カラバオが2020年に発表した「ポーン・アイ・カイ」<YouTube>より

スリン県の森のなかで発見された蟻塚がアイ・カイ像にみえると話題に。宝くじの当選番号を予言するとして信仰を集める
2021年1月頃



<<https://today.linn.me/th/v2/article/Lzwp82>>

著作権法違反になることをおそれ、像や護符を回収する例もあったが実際に法的処置がされた例はみられない。安置していた像の公開を一度は停止したが、名前を変えて再開した例も。ex. チェンマイ県ワット・ターマイイ วัดท่าใหม่ 廟の「アイ・カイ・ルーク・メー・イ」

防衛的登録？

商務省 กระทรวงพาณิชย์は、「アイ・カイ・デック・ワット・チェディー」の著作権がワット・チェディーに登録されていることを公表
2020年9月頃、報道が話題に
<https://www.matichon.co.th/local/news_2352743>



護符や小像の模造品も流通

<<https://www.sanook.com/horoscope/188781/>>

知的財産権に対する意識の啓発が目的？



<https://www.amarintv.com.translate.google.com/news/detail/73100?_x_tr_sl=th&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=op,sc>

2021年4月ワット・チェディー公認のもと製作されたセミ・ドキュメンタリー番組がテレビ放送される

地方のいわゆる“都市伝説”であったアイ・カイへの信仰は、SNSを通じて全国的に知名度を上げ、さらに寺院がその著作権を保有しているという報道が、仏教寺院から公認を得ているかの印象を与え信憑性を強化することとなった。高僧と関連づけた逸話の流布や、寺院監修のもとで製作されたテレビ番組などを通し、事実上の国教とされるタイ上座仏教の文脈に取り込まれ、リアリティを獲得していく。

タイ上座仏教は、本来、自力救済を基本とする厳格さがあるが、今を生きる在家者の不安の軽減や欲求の充足のために、民間信仰と混交する柔軟さもある。宝くじの当選に代表されるアイ・カイが授けるという繁栄のご利益は、世俗的問題に直面する現代の人々を魅了している。リアリティを獲得したアイ・カイは、信仰だけではなく、観光、ファッション、投資の対象ともなり、地域やタイ全土の社会と経済を活気づけている。

※本研究は科研費(17J40124)の助成を受けたものです。